

平成24年6月 東京地区百貨店売上高概況

平成24年7月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,249億円余
2. 前年同月比	-0.1% (店舗数調整後/4か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-0.2%(89.4%) : 非店頭1.1%(10.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 26店 (平成24年5月対比±0店)
5. 総店舗面積	911,369㎡ (前年同月比:-0.8%)
6. 総従業員数	19,446人 (前年同月比:-0.9%)
7. 3か月移動平均値	11-1月 -1.7%、12-2月 -1.3%、1-3月 6.1%、 2-4月 10.2%、3-5月 11.3%、4-6月 2.8%

[参考] 平成23年6月の売上高増減率は0.4% (店舗数調整後)

【6月売上の特徴】

- (1) 6月の東京地区は、気温も低く推移したことにより、夏物衣料の動きが鈍くなったが、レイン関連グッズや晴雨兼用傘等に動きが見られた。
一方、天候不順の中、早くもUVスキンケア関連の化粧品が動きはじめています。
- (2) 昨年好調であったクールビズや節電関連商品は、天然素材のジャケットやベスト、機能(ストレッチ)・素材(天然)・デザインにこだわった一部商品に動きがあるものの、昨年大きく伸ばしていたワイシャツ・肌着・扇子については、反動減となった店が多かった。
- (3) 昨年の花火大会自粛の反動や買い換え需要のため、ゆかたが好調に動いており、6月の時点で仕立てものの高級ゆかたが2桁以上の伸びを示した店が複数見られた。
- (4) 法人外商を中心に非店頭売上が好調となり、特に家具・家電について複数の店舗で売上が150~300%台の伸びを見せたため、都内全店の売上を2桁増(家具:+14.3%、家電:+57.9%)とした。
- (5) 7月中間段階における商況は、梅雨明けが昨年より8日遅れるなど上旬の天候不順の影響もあり、月初は伸び悩んだものの、2週目から盛り返しており、多くの店で前年クリアの勢いにある。なお中元商戦は、通期で前年並みとなる見通しである。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
①増加した: 3店、②変化なし: 3店、③減少した: 14店、④不明: 0店
- (3) 6月歳時記(中元、父の日)の売上(同上)
①増加した: 5店、②変化なし: 4店、③減少した: 9店、④不明: 2店
- (4) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)
①増加する: 3店、②変化なし: 11店、③減少する: 5店、④不明: 1店

東京地区百貨店 売上高速報 2012年06月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	124,975,044	100.0	-0.1 (-0.8)
紳士服・洋品	9,850,819	7.9	-3.6
婦人服・洋品	21,891,341	17.5	-5.5 (-6.2)
子供服・洋品	1,688,760	1.4	-3.8
その他衣料品	2,481,054	2.0	-4.5
衣 料 品	35,911,974	28.7	-4.8 (-5.3)
身のまわり品	16,447,227	13.2	5.8 (2.6)
化粧品	6,538,632	5.2	5.2
美術・宝飾・貴金属	7,258,119	5.8	6.7
その他雑貨	5,594,270	4.5	-7.4
雑 貨	19,391,021	15.5	1.7
家具	2,061,471	1.6	14.3
家電	1,127,086	0.9	57.9
その他家庭用品	4,041,991	3.2	-11.3 (-12.3)
家 庭 用 品	7,230,548	5.8	2.2 (1.5)
生鮮食品	6,189,217	5.0	0.1
菓子	9,532,528	7.6	4.3
惣菜	7,106,793	5.7	6.9
その他食料品	14,433,264	11.5	-1.0 (-1.5)
食 料 品	37,261,802	29.8	1.9 (1.7)
食堂 喫茶	3,090,874	2.5	-3.1 (-4.0)
サ ー ビ ス	2,415,389	1.9	20.7
そ の 他	3,226,209	2.6	-17.1 (-19.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)
※

商品券	5,574,074 千円	-24.8 (-25.0)
従業員数	19,446 人	-0.9
店舗面積	911,369 m ²	-0.8

営業日数	30.0 日	前年	30.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品と家庭用品が4か月連続、雑貨と食料品が5か月連続のプラス。衣料品が4か月ぶりにマイナスとなった。また、化粧品、美術・宝飾・貴金属、家電、菓子が5か月連続、家具が3か月連続、生鮮食品が6か月連続、惣菜が11か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.1	—	4か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-3.6	-0.3	9か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-5.5	-1.0	4か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-3.8	-0.1	4か月ぶりマイナス
その他衣料品	-4.5	-0.1	3か月ぶりマイナス
衣料品	-4.8	-1.5	4か月ぶりマイナス
身のまわり品	5.8	0.7	4か月連続プラス
化粧品	5.2	0.3	5か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.7	0.4	5か月連続プラス*
その他雑貨	-7.4	-0.4	2か月連続マイナス*
雑貨	1.7	0.3	5か月連続プラス
家具	14.3	0.2	3か月連続プラス
家電	57.9	0.3	5か月連続プラス
その他家庭用品	-11.3	-0.4	2か月連続マイナス
家庭用品	2.2	0.1	4か月連続プラス
生鮮食品	0.1	0.0	6か月連続プラス*
菓子	4.3	0.3	5か月連続プラス*
惣菜	6.9	0.4	11か月連続プラス*
その他食料品	-1.0	-0.1	2か月ぶりマイナス*
食料品	1.9	0.6	5か月連続プラス
食堂喫茶	-3.1	-0.1	4か月ぶりマイナス
サービス	20.7	0.3	2か月ぶりプラス
その他	-17.1	-0.5	2か月連続マイナス
商品券	-24.8	-1.5	14か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>